

NPO等と連携し、中心市街地を舞台に年間150回の子供向けイベントを開催

## 宮崎商工会議所

機関名	宮崎商工会議所			
所在地	宮崎県宮崎市橘通東1-8-11			
電話番号	0985-22-2161			
地域概要	(1)管内人口	30万6千人	(2)管内商店街数	11商店街
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数	8商店街	(2)会員数	368商店
	(3)空店舗率	12%	(4)大型店空き店舗数	1店
商店街の種類	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街			

### 【事業名と実施年度】

平成14年度 活性化対策事業

NPO（子育て支援グループ）と連携して、子供達が自由に遊び、学べる拠点づくり

・おもちゃ病院、親子手作り教室、読み聞かせ、人形劇、大道芸、手品、ミニコンサート等

総事業費

15,000千円

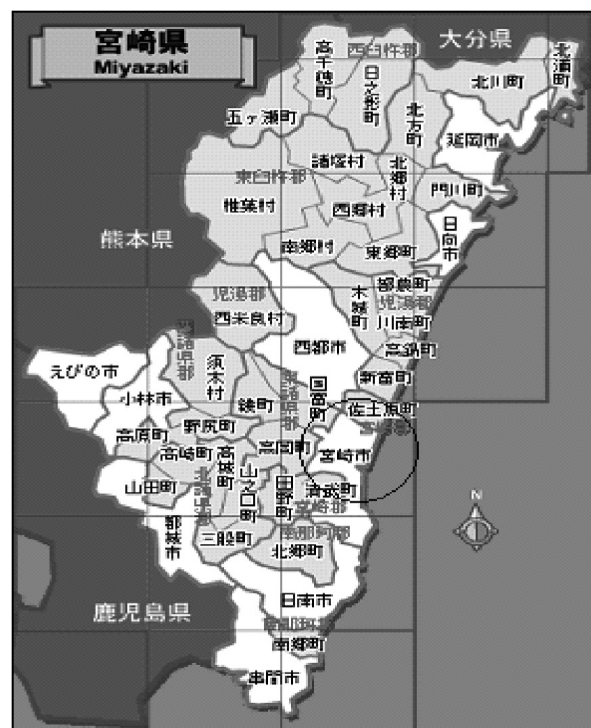
### 【事業実施内容】

#### 1. 背景

宮崎市は九州の東南に位置する人口30万人を超える県庁所在地であるが、中心市街地の人口は20年間で約30%減少している。同市では昭和60年代からロードサイド店の出店が加速し、中心市街地では商店の減少率が大きく、空き地や空き店舗も目立っている。

このような中心商店街空洞化の現状を受け、平成10年12月に策定された宮崎市中心市街地活性化基本計画を基盤に、宮崎市や商工団体、TMOが中心となって商業活性化を図るための22の事業が推進中である。この一環として平成12年度、13年度と連続して空き店舗対策事業を実施した。

本事業もまた、このような中心市街地活性化のための枠組みの一環として実施された。



宮崎市の位置

## 宮崎商工会議所

### 2. 事業内容

#### (1) 事業概要

平成14年4月から実施されている学校週5日制に対応し、土日・祝日に子供を対象とした各種催事を「まちななかプレイパーク事業」として、宮崎市中心市街地内の様々な場所（空き店舗、アーケード内、公園等）で開催した。商店街組織、子育て支援グループ（特定非営利活動法人）、ボランティア団体が連携して平成14年7月1日～平成15年3月31日の間に計150回実施し、子供が学んだり、遊んだりする拠点作りを行った。



宮崎市の中心市街地の様子（橋通り）

#### ①街かど図書館

小学生等に対する図書の貸出や読み聞かせの実施

開催場所：みやざき子ども文化センター

実施回数：計29回 参加者数：計415名

#### ②こちら報道部

小学生等によるまちなか情報の収集や収集した情報を基にした新聞制作等

開催場所：みやざき子ども文化センター

実施回数：計10回 参加者数：計181名

#### ③おもちゃ病院

ボランティアによる玩具の修理

開催場所：アゲインビル

実施回数：計5回 参加者数：計260名

#### ④キッズギャラリー

親子が一緒に取り組む手づくり教室の開催

開催場所：みやざき子ども文化センター、アゲインビル、宮崎山形屋

実施回数：計19回 参加者数：計1,176名

#### ⑤フラッグアート

小学生等によるフラッグの製作と展示

開催場所：ふるさと物産館海幸・山幸、若草通商店街

実施回数：計6回 参加者数：計870名

#### ⑥トンカチ号

小学生等を対象とした材木廃材を使った工作教室の開催

開催場所：ふるさと物産館海幸・山幸、一番商店街

実施回数：計5回 参加者数：計320名

#### ⑦ベビーシッター研修会

中・高・大学生等を対象とした乳幼児保育を学ぶ研修会の開催

開催場所：みやざき子ども文化センター、宮崎山形屋

実施回数：計 3 回      参加者数：計31名

⑧ベビーシッター

中・高・大学生等を対象とした乳幼児保育の体験学習の実施

催場所：みやざき子ども文化センター、宮崎山形屋

実施回数：計 2 回      参加者数：計47名

⑨プレイリーダー研修会

中・高・大学生等を対象とした乳幼児保育の体験学習の実施

開催場所：みやざき子ども文化センター

実施回数：計 1 回      参加者数：計20名

⑩人形劇（ワークショップ）

小学生等が主体となった人形劇作り

開催場所：みやざき子ども文化センター、アゲインビル、宮崎商工会館

実施回数：計12回      参加者数：計326名

⑪コンサート

幼児向け（アマ）

開催場所：みやざき子ども文化センター、四季通商店街、宮崎山形屋

実施回数：計 4 回      参加者数：計246名

⑫コンサート

小、中学生向け（プロ）

開催場所：若草通商店街、一番街商店街、四季通商店街、宮崎山形屋、県庁楠並木通り、宮崎市民プラザ

実施回数：計 6 回      参加者数：計990名

⑬コンサート

小、中学生向け（アマ）

開催場所：若草通商店街、一番街商店街、四季通商店街、宮崎山形屋、県庁楠並木通り、宮崎駅前商店街、みやざき子ども文化センター

実施回数：計18回      参加者数：計2,130名



小学生らがカフェ運営を体験学習



まちかどファミリーステージ

## 宮崎商工会議所

### ⑭演劇・子ども映画祭

小・中学生等を対象とした演劇・映画鑑賞会の開催

開催場所：みやざき子ども文化センター、宮崎山形屋、宮崎文化本舗

実施回数：計3回 参加者数：計245名

### ⑮人形劇

幼児・小学生等を対象とした人形劇の開催（アマ）

開催場所：みやざき子ども文化センター、宮崎山形屋

実施回数：計5回 参加者数：計280名

### ⑯人形劇

幼児・小学生等を対象とした人形劇の開催（プロ）

開催場所：みやざき子ども文化センター、宮崎山形屋

実施回数：計6回 参加者数：計760名

### ⑰大道芸・手品

幼児・小学生等を対象としたパントマイム・手品鑑賞会の開催

開催場所：みやざき子ども文化センター、宮崎山形屋、県庁楠並木通り、一番街商店街、四季通商店街

実施回数：計10回 参加者数：計977名

### ⑱キッズカフェ

小学生等によるカフェの店舗運営の体験学習の実施

開催場所：若草通商店街、四季通商店街、宮崎山形屋、県庁楠並木通り

実施回数：計6回 参加者数：計440名

イベント実施回数合計：150回

イベント参加者数合計：9,714名

## (2) 事業実施体制

### NPO法人みやざき子ども文化センター

#### 【事業内容】

- ・子どもの活動をサポート  
キッズカフェ、まちなかプレイパーク
- ・子育てをサポート  
親と子のドロップイン、まちかどキッズルーム、街角子ども図書館、情報誌の発行
- ・子どもの心の居場所づくり
- ・親の心の居場所づくり
- ・子どもと文化に関する学び
- ・芸術文化活動

### NPO法人宮崎文化本舗

#### 【事業内容】

- ・宮崎キネマ館、多目的ホールの運営
- ・広報誌の発行、HPによる告知活動
- ・平成13年度NPO活動活性化支援事業
- ・地域通貨の調査、研究事業
- ・宮崎フィルムコミッション設立に関する調査、研究事業

主催は宮崎商工会議所であるが、企画運営はNPO法人みやざき子ども文化センターとNPO法人宮崎文化本舗が行い、宮崎市と宮崎教育委員会の協賛を得た。これらのNPO法人とは宮崎商工会議所の担当者がまちづくりへの取り組みを進める中でセミナー等を通して知

り合い、連携が深まっていったもので、各イベントにおいては大学や保育園、福祉作業所、地元音楽愛好家グループなど、計57団体もの協力を得ている。NPO法人に事業を委託するのではなく、イベントごとに必要な経費を計上する形で運営を行った。

広報についてはホームページや新聞折り込み、タウン紙等の媒体を活用したほか、教育委員会を通じて市内の小学校にチラシを配布した。

## 【効果】

### (1) 商店街を中心としたコミュニティの醸成

完全週5日制実施の対策として、子どもたちが芸術や文化に触れる機会を作り、人と人が関わりながら子どもの視点でまちづくりを考える事業として、市民からの高い評価を得た。その結果、子どもをキーワードに、商店街を中心としたコミュニティの醸成が図られた。

### (2) 賑わいの創出

土・日・祝日の中心市街地への集客力を高めることができた。イベントの実施回数合計は150回、参加者数合計は9,714名に達し、賑わいの創出につながった。

### (3) 商店街とNPO等市民グループとの連携が深まった

商業者とNPO等市民グループとの連携が深まり、商業者が生活者の視点でそれぞれの商店経営を見直す機会も得られた。さらに、行政、TMOも一体となって事業を推進したことで、様々な主体のつながりを強化することができた。

### (4) NPOの活動内容に広がり

宮崎山形屋の協力を得て、ベビーシッター事業の一環として1日だけ設けられたキッズルームは、子ども連れの買い物客から高い評価を得た。このため、NPOでは買い物客向けの託児サービスシステムの検討を開始し、平成15年7月、宮崎山形屋の別館1階にキッズルームをオープンさせた。なお、このキッズルームの運営は平成15年度のコミュニティ施設活用商店街活性化事業「まちなかプレイパーク」の一環として行われている。

### (5) 商店主の意識に変化

事業開始当初は誰かイベントをやってくれるのであればやってもよい、という消極的な反応が多かったが、中には積極的に本事業を応援する商店主も現れ始めた。

## 【課題・反省点】

### (1) 連絡・調整の難しさ

イベントの実施回数が多かったために、全体を通して事前準備、スケジュールなどの連絡調整が行き届かず、広報・PRが十分にできなかった。また、開始当初は商店街と思うように連携ができない面もあったが、宮崎山形屋に隣接する四季通りでは、毎月第4日曜日を歩行者優先道路にして「プレイパークの日」と位置付けるなど、次第に本事業の主旨が浸透していった。

### (2) 最低3年、継続して事業を実施

NPO等市民グループが経済的に自立することは容易ではないが、単年度事業では成果が出にくい性質のものが多く、様々な支援メニューを活用して最低3年は事業を継続して実施

したい。

(3) 商品構成の工夫など、商店としての魅力づくり

子どもに関する文化の拠点づくりという意味では意義のある事業であったが、中心商店街の各商店が、プレイパーク事業で来街したお客に喜んでもらえるような商品構成の工夫をしなければ、単なるイベントで終わってしまう。

【教 訓】

(1) 様々な支援メニューを組み合わせ、複合的に事業を推進

宮崎市では平成11年度より、TMO事業として様々な事業を複合的に推進している。商店街等活性化事業（平成12年度は商店街等活性化先進事業）にも平成12年度から平成15年度まで4年連続して取り組んでおり、特に空き店舗対策事業において、成果が出始めている。1つの事業を単独で実施するのではなく、様々な支援メニューを組み合わせることで活性化対策の効果を高めることができる。

(2) すぐに成果を求めず、共通認識を持つ人を増やしていく

最初から成果を求めなくてよい。やりたいことがあればとりあえずやってみて、ダメだったら方向転換するくらいの姿勢が望ましい。すぐに成果が出なくても、一緒に苦労した人がいれば共通の思いや認識を持つ人を増やすことができる。遠回りのように見えても人のつながりをつくるのが、活性化への近道である。



宮崎日日新聞の記事（平成14年12月20日）

(3) 商工会議所やTMOがコーディネーター役に徹する

商工会議所等が地域のコーディネーターとして、フットワーク軽く動くことが重要で、店主や商業団体だけでなく、NPO法人もサポートすべきである。

実際、宮崎商工会議所では、NPO法人にも会員になってもらっている。

(4) 子供をキーワードにすることで、多くの協力を得ることができる。子供をキーワードにすることで、親や祖父母、保育・教育に関心を持つ若者など、幅広い世代の人々を巻き込むことができる。

【関 連 U R L】

宮崎商工会議所 <http://www.miyazaki-cci.or.jp/miyazaki/>